

2023. 11

vol. 121

改訂版 vol. 51

女性委員会だより

らくだ



公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367

はじめに

■運営委員長としての仕事

東海北陸ブロック会女性建築士協議会
運営委員長
長瀬 八州余

本来「らくだ」(女性委員会だより)の「はじめに」は、委員長か副委員長が書くことになっています。過去には担当副会長に寄稿していただいたこともあります。今回長瀬の不注意で、事前に原稿依頼を誰にもしていませんでした。51号を作成する時に、「あら」と気がつきました。原稿を依頼する時間もないので、自分で書くことにしました。まだ任期途中ではありますが、運営委員長の仕事について報告しようと思います。

令和4年4月に、前運営委員長の矢尾さんから引継を受け、この引継も資料は宅配で届き、後はZOOM会議で引継をしました。以前は何処かで対面でおこなっていましたが、今は本当に便利になりました。

令和4年度前期愛知会議をおこないましたが、主な書類は前年度の事なので、多くは矢尾さんたちが作成してくださいました。前期愛知会議は、リモートになれている愛知県だったので、スムーズに進んだと思います。打ち合わせ等リモートで2回ほど行いました。各県テキパキと動いてくださいましたので、助かりました。

助成金等の支払いは、全建女で対面にて行いました。

東海北陸ブロック会(本会)の会議は年に4回あり、第1回と第4回に、女性建築士協議会として、活動報告をするために参加しなくてはなりません。第1回は前期会議の冊子を持って、支援金のお願いをします。本会の担当県は持ち回りで、令和4年度は富山県でした。現地にて参加する予定でしたが、前日の豪雨の為にリモート参加となりました。

令和4年度後期は「ぎふ下呂大会」だったので、担当県との連絡を密に取る事ができて良かったと思います。今回は全て自分で資料を作成しなくてはなりませんが、前年に倣って、矢尾さんや坂上さんに問い合わせをして作成しました。「ぎふ下呂大会」では皆様ありがとうございました。前期6月と後期2月の間は結構空いているのですが、後期が終わるとすぐに前期の準備を始めなくてはなりません。

令和5年度前期は富山県が担当県でした。女性委員長の上野さんと相談しながら進めていきました。会議資料作りは、少しわかってきています。

7月に令和5年度第1回本会会議に参加してきました。令和5年度の担当県は静岡県です。矢尾さんが仕事の関係で急遽欠席になったので、女性協議会からは私一人の参加でした。支援金のお願いをしてきました。

その会議で、今までブロック会女性建築士協議会の前期、後期の案内を郵送にて、各県会長宛てに送る事を申し送り引き継いでいきましたので、郵送で送っていましたが、メールで良いかと、うかがったところ、メールで良いことになりました。

令和5年度は全建女が石川県だったので、東海北陸ブロック会女性建築士協議会として、お手伝いがあったので皆さんにはご足労をおかけしましたが、大会を無事に終えることが出来、ありがとうございました。

今は後期なごや大会の資料作成を始めているところです。

各県の運営委員とは、メーリンググループで意見交換や資料等の送信が出来るので、本当に便利になっていると思います。

運営委員長としての仕事も残り半年ほど、長瀬もがんばりますが、皆さんもよろしくお願ひします。





今回の記事

- ◇ はじめに
- ◇ 今回の記事
- ◇ 今後の予定・お知らせ
- ◇ 令和5年度 建築士の日事業
日 時: 令和5年5月16日(火)
会 場: ぎふ放送
- ◇ 見学会「関・美濃」
日 時: 令和5年5月21日(日)
会 場: 関市内、美濃市内
- ◇ 東海北陸ブロック会女性建築士協議会
令和5年度前期定例(富山)会議
日 時: 令和5年6月25日(日)
会 場: WEB 会議(開催幹事県: 富山県)
- ◇ 見学会「タイル工場見学会」
日 時: 令和5年7月5日(水)
会 場: 株式会社 日東製陶所
- ◇ 令和5年度
第32回全国女性建築士連絡協議会(石川)
日 時: 令和5年7月29日(土)～30日(日)
会場: ハイブリッド開催
金沢市文化ホール
- ◇ 第65回建築士会全国大会 しずおか大会
日 時: 令和5年10月27日(金)
会 場: 静岡グランシップ
- ◇ 編集後記



今後の予定・お知らせ

- ◆ たくみ女子会
日時: 令和5年12月16日(土)
- ◆ 令和4年度 建築士会東海北陸ブロック会
女性建築士協議会 後期ブロック なごや大会
日時: 令和6年2月24日(土)～25日(日)



令和5年度 建築士の日

- 日 時: 令和5年5月16日(火)
- 会 場: ぎふ放送
- 参加者: 女性委員会から2名



(出演者で集合写真)

■ 令和5年度 建築士の日事業 報告

報告者: 高野 栄子

7月1日は建築士の日です。以前はショッピングセンター等で建築士のPRイベントを行っていましたが、今年度は「ぎふチャンラジオ」に出演することになりました。「今日もラジオは2時6時」という番組でコーナータイトル“早苗の建築士のお仕事知っていますか?”という10分間のコーナーです。

放送日は6月5日(月)、12日(月)、19日(月)26日

(月)の4回でPM15:15 から10分間です。

桂川さんと私の放送予定は26日です。

5月16日(火曜日)に事業研修委員会の藤原さん、田上さんとまちづくり委員会福まち部会部会長の桂川さんと私の4名で収録に参加しました。

前日には石黒会長、事業研修委員会の小川委員長、成瀬さん、川尻さん、藤原さんが参加されています。

私は建築士会の組織についてと「たくみ女子会」のPRを、桂川さんは「福まち建築士」の活動についてお話ししました。

はじめて入るスタジオは物珍しいものがいっぱい、楽しかったです。収録はデジタルデータですので少々間違えても、言い直しても簡単に編集することができるそうですので、気楽に普通にお話ししました。

アナウンサーの吉田さんはとても進行がお上手ですがプロだなと思いました。

ラジオを通して、少しでも建築士の仕事と建築士会を知って頂き、PRになれば良いなと思っています。貴重な体験をしました。



(収録の様子)



見学会「関・美濃」

日時: 令和5年5月21日(日) 10:00~15:00

会場: 関市内、美濃市内

共催: 青年委員会

参加者: 女性委員会: 2名

青年委員会: 8名 合計: 10名

■見学会に参加して

報告者: 高野 栄子

東海北陸ブロック会女性建築士協議会 令和6年度後期ブロック大会の開催地決定のため、青年委員会と合同で現地視察を行いました。

5月とは思えないくらいの晴天でとても暑い日でした。関市内は関市役所に隣接するわかさプラザと関市文化会館、古民家「あいせき」、関善光寺、せきテラス等を見学しました。

午後からは美濃市に移動し、うだつの上がる町並みと森林総合教育センター(モリノス)に行きました。施設が両市内各所に点在し、岐阜駅からのアクセスも悪いので貸し切りバスを多用する必要がありますが、関市はまちづくりに力を入れていて新しい試みや施設があり、美濃市は見所が多い伝建地区を中心に個人ではなかなか行く機会のない方面なので、そこで大会を開催すると参加者の方にも有意義な大会になるのではないかと思います。



(会場に予定している「わかさプラザ」)



(モリノス)



建築士会

東海北陸ブロック会女性建築士協議会

令和5年度前期定例（富山）会議

日 時：令和5年6月25日（日） 9:30～12:00

会 場：WEB 会議（ZOOM 使用） 開催幹事県：富山県

参加者：29名（岐阜県4名参加）+富山県 西野会長



（スクリーンショットにて集合写真）

■令和5年

東海北陸ブロック会女性建築士協議会

前期富山会議 報告

報告者：高野 栄子

令和5年度の前期会議に参加いたしました。
昨年度からは前期会議はweb会議となり、幹事県は富山県でした。

主な審議事項は、今年度の事業計画と、予算です。
事業計画では運営委員長の青年協議会への出席についての確認がありました。

必要な場合のみ出席するという事でした。

予算については石川大会の交通費支出が協議会から各県へ直接支給となりました。

また今年度から全建女の1×1に参加する県への助成は、今まで同様無しになりました。

その他、愛知の女性委員会には今年度男性の方が専門委員として加入されたそうです。

女性委員会も女性にこだわるのではなく、同じ志をもつ

者同士の集まりという段階になってきているのでしょうか、いまどきを感じました。

次回の後期ブロック会議、なごや大会について、会議はハイブリッドにならない予定、会議をオンライン配信のみの予定だそうです。

参加希望の方は対面参加をご予定ください。名古屋城本丸の見学などを予定されています、名古屋は近いので日帰り参加も可能です、多数の方々のご参加を期待しております。詳しくはまたお知らせさせていただきます。



（↑ 富山県 西野会長 挨拶の様子）



（↑ 富山県 女性委員長 上野さん 挨拶の様子
富山県は建築士会会議室に集合しての参加です。）



見学会「タイル工場見学会」

日 時：令和5年7月5日（水） 10:00～12:00

場 所：株式会社日東製陶所

岐阜県多治見市明和町1丁目 125 番地

TEL 0572-27-2155

参加者：6名



((株)日東製作所 会社前にて集合写真)

■見学会に参加して

報告者: 森崎麻充

今回の見学会は、株式会社 日東製陶所の本社工場でした。

原料の搬入に始まり、成形施釉、焼き上げからユニット加工に至るまでの工程を見せていただきました。

オートメーション化された工場でしたが、2か所で人の目により外観等のチェックが選別されており、少し驚きました。

また、多種の色合いを出すために、試験釉薬の調合室では、原料の大変精密な測定が行われていました。

同行していただいた営業開発課の方々には、私共のあらゆる質問にも丁寧にお答え下さり、この場を借りて感謝申し上げます。

見学の後は、日東製陶所がプロデュースするスワンタイルカフェでランチです。

カフェは、倉庫をリノベーションしており、天井が高く開放的で、また、いたるところにタイルが使われており、豊かな空間でした。

ランチ会議を行いながら、6名の女性委員で話も弾み、楽しいひと時を過ごしました。



(↑ 会議室にて、会社等の説明を受ける。
机には見学時に被る帽子が用意してありました。)



(↑ 工場内での見学の様子)



(↑ ランチ会場にて。)



令和5年度 第32回

全国女性建築士連絡協議会

(石川)

日時: 令和5年7月29日(土)～30日(日)

会場: 金沢市文化ホールとZOOM

石川県金沢市高岡町 15-1

参加者: 対面293名 リモート65名 合計358名

(岐阜県から 対面5名、リモート1名)

テーマ: 「守り・育て・受け継がれる技術、手仕事」～伝統工芸と建築～



(会場にて岐阜県から参加の5名で集合写真)

◆プログラム

令和5年7月29日(土)

全国女性委員長(部会長)会議
12:00～13:30 於: 金沢市文化ホール 大ホール / ZOOM

令和5年度 第32回全国女性建築士連絡協議会(石川)

【受付】 13:00～14:15 於: 金沢市文化ホール ロビー / ZOOM
(12:00～14:00 喫茶 会議棟茶室: 閉清庵)

【開会式】 14:15～14:45 於: 金沢市文化ホール 大ホール / ZOOM
総合司会 石貫 方子
・開会の辞
・主催挨拶 公益社団法人 日本建築士会連合会 会長 近角 真一
・開催挨拶 一般社団法人 石川県建築士会 副会長 田尻 純江
・委員長挨拶、運営説明 公益社団法人 日本建築士会連合会 女性委員長 本間 恵美

【被災地報告】 14:45～15:00 (15分)
・「東北～復興支援道路が全線開通して」
東北ブロック会 女性委員会 青森県建築士会 近藤容子、岩手県建築士会 志田文子、
宮城県建築士会 小林淑子、福島県建築士会 村越のぞみ

【活動報告】 15:00～15:15 (15分)
・「静岡県における木造住宅の耐震化の取り組み」
静岡県くらし・環境部建築安全推進課 建築耐震班長 市川 府元 氏
- 休憩15:15～15:30 -

【基調講演】 15:30～17:00 (90分)
・石川らしい文化でおもてなし 北陸新幹線金沢駅舎は伝統工芸による「美術館のような金沢駅」
講師 金沢学院大学名誉教授 大場 吉美(おおばよしみ) 氏

【全国大会案内】 17:00～17:08 (8分)
・第65回全国大会「しずおか大会」参加のご案内

【お知らせ】 17:08～17:15 (7分)
・「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」について 日本建築士会連合会災害対策委員会
・「自然災害に備えて 住まいづくりの助言」UIFA JAPON (国際女性建築家会議日本支部)
- 休憩17:15～17:25 -

【交流会】 17:25～18:00 (35分) 於: 金沢市文化ホール 大ホール
・ファンバイワン (山形県・埼玉県・福井県・滋賀県・島根県・宮崎県)
・交流会

令和5年7月30日(日)

【分科会】 9:00～11:00 (120分) 於: 金沢市文化ホール 会議棟/ZOOM

・A分科会 あつまれ～旅好き建築女子! 「魅力ある和の空間ガイドブック」part5
司会者: 齊藤 裕美 (北海道建築士会)
コメンテーター: 松本あいつ (群馬建築士会)
コメンテーター: 村上 良枝 (香川県建築士会)

・B分科会 バリアフリーのまちづくり/みんなで考えるバリアフリー
司会者: 鈴木 深雪 (福島県建築士会)
コメンテーター: 佐藤 玲子 (福島県建築士会)
コメンテーター: 佐藤由香利 (福島市観光コンベンション協会)

・C分科会 「いばらき木造塾」～伝統技術の継承～
司会者: 小貫 弘巳 (茨城県建築士会)
コメンテーター: 藤根 玲子 (茨城県建築士会)
コメンテーター: 豊田 久恵 (茨城県建築士会)

・D分科会 「住まい・まちづくりを考えよう」小中学生の住教育出前講座
司会者: 山本 規子 (奈良県建築士会)
コメンテーター: 竹田 敦子 (大阪府建築士会)

・E分科会 「徳島型気候風土適成住宅」基準策定への取組
司会者: 高源真由美 (徳島県建築士会)
コメンテーター: 島田めぐみ (徳島県建築士会)

・F分科会 「灯台が照らした未来への道すじ」
司会者: 高橋 由美 (大分県建築士会)
コメンテーター: 小関 公香 (大分県建築士会)

- 全体会場へ移動 11:00～11:15 -

【全体会】 11:15～12:00 (45分) 於: 金沢市文化ホール 大ホール/ZOOM

総合司会 石貫 方子
・分科会報告 (3分×6分科会) 各分科会司会者
・全体総評 連合会女性副委員長 小林 淑子
・令和5年度第32回全国女性建築士連絡協議会アビール 連合会女性委員長 本間 恵美
・開催挨拶 石川県建築士会女性委員長 田中 宮土里
・閉会の辞

* エクスカーションを申し込んでいない方は、ここで解散となります。

- 昼食・休憩 12:00～13:30 -

【エクスカーション】 13:30～17:00 (約3.5時間) 13:30 金沢市文化ホール正面玄関集合

・1コース 金沢表具体験 (インテリアパネル作成) 於: 金沢親人大学校
・2コース 加賀水引体験 於: 蒼風庵
・3コース 加賀友禅体験 於: 西や
・4コース 呈茶体験 於: 金沢城公園、玉泉庵など
・5コース 石川県立図書館 見学ツアー 於: 石川県立図書館

■オンラインで参加をして

報告者: 下川 滝美

7月29日の14時からの開会式から7月30日全大会までオンラインで参加をしました。

前日もZOOMで参加をしましたでしたが今回は全体を通して

ストレスなく拝聴できました。

準備を入念にされたのだと思いました。

音声も明瞭で、司会者、ステージ、講師のアップ、そして

会場のカメラの選択もスムーズで感心するばかりでした。

分科会では一部音声途切れた時がありましたがほぼ問題なく参加ができました。

下呂大会の時のことを思い出しオンライン開催の難しさがわかっているのでまた違った目で参加させてもらいました。

自宅から参加をさせてもらえるということに感謝して全国からの発表を見せてもらい充実した時を過ごすことができました。

■令和5年度

第32回全国女性建築士連絡協議会

(石川)に参加して **全体報告**

報告者：長瀬八州余

令和5年7月29日(土)30日(日)の二日間 全建女(石川)大会に参加してきました。対面とリモートでのハイブリットでの開催です。

参加者数について、閉会式にて、対面293名 リモート65名 合計358名との発表がありました。

今回岐阜県から 対面5名、リモート1名の参加です。いつもですと、参加者で集合して、参加するのですが、今回は各々用事等があり、バラバラでの参加でした。私は1日目の午前からの作業に参加してしたので、前泊をしました。

【29日(1日目)】

建築士会東海北陸ブロック会女性建築士協議会内で、今回の全建女石川大会にて、お手伝い出来る事は石川県から連絡をいただき、各県参加する事として、事前に協議していましたので、午前中の作業(資料袋詰め)に岐阜県からは、桂川さんと長瀬の2名が参加しました。



(↑ 袋詰めの作業風景)

私たちが袋詰め作業をしていた時、連合会の役員さんは、式典の準備をしていました。



(↑ 大ホールでの準備の様子)

東海北陸ブロック会の腕章を受け取り腕に巻きます。



(↑ 東海北陸ブロック会女性委員の腕章)

11時から、ホール・ロビーでの受付、座席案内などの作業をおこないます。



(↑ 受付の様子)

ブロックからのお手伝いの人にはお弁当が配布されます。



(↑ 配布されたお弁当。美味しかったです。右上のお饅頭はマンゴー味の餡でした。)

会場の金沢市文化ホールには、茶室があり、呈茶の案内が有りました。3回に分けて予定されており、事前に申し込んでいた人は、時間によりお抹茶の接待を受けました。

畳席の他に、椅子席も用意してありました。



(↑ 畳席の様子)

12:00～13:30 全国女性委員長(部会長)会議があり、代理の方が数名居ましたが、46都道府県中1名だけがWEB参加で45名は対面での参加でした。昨年はオブザーバ参加の方はもう少し多かったと思いますが、今回は長瀬のみの参加でした。

14:15～14:45 開会式

いつもだと開会式では、開催県の会長が挨拶をされていてと思いますが、今回は副会長の田尻さんが挨拶を

されました。



14:45～15:00 被災地報告

15:30～17:00 基調講演

17:00～17:05 第65回全国大会しずおか大会参加の案内

例年ですと大会開催県の女性委員会が紹介をしていますが、静岡県には全国女性建築士会連絡協議会に参加している委員会がありませんので、(公社)静岡県建築士会会長の飯尾清三氏が登壇されて案内をされました。



(↑ 静岡県建築士会 会長の飯尾氏の挨拶)

17:15～18:00 交流会

ワンバイワンでは、山形県、埼玉県、福井県、滋賀県、島根県、宮崎県が発表されました。

交流会が終了後、明日の会場設営の作業です。

分科会毎に事前に割り振りがあるので、それに沿って会場へ行き、会場の机、椅子等の設営をおこないます。

昨年の東京大会では前日の設定が出来なかったので、凄く大変だったとの事ですが、今回は前日に会場の設営が出来、リモート関係は外部から業者の方をお願いしているので、その方が主になり、連合会の役員さんや明日のコメンテーターさんは、器機の設定等をしていました。



(↑ 作業の様子)

大ホールでの撮影は業者の方がしていました。



(↑ ステージから会場を映す様子)



(↑ ステージの様子を映す様子)

今回も前回の東京と同じように畳屋さんが協賛で、畳の台を作成するコーナーがありました。



(↑ 作成風景)



(↑ 作成風景)

当日の7月29日は「北國新聞創刊 130年記念 北國花火 2023 金沢大会」ということで、花火を見ることができました。



(↑ 道路から花火を見る)

【30日(二日目)】

分科会の受付等のお手伝いがあるので、8時に会場へ向かいます。今回はホテルが会場の向かいなので、凄く楽でした。

9:00～11:00 分科会

11:15～12:00 全体会

- ・分科会報告
- ・全体総評
- ・令和5年度第32回全国女性建築士連絡協議会アピール
- ・開催県挨拶



(↑ 開催県石川県女性委員長 田中さんの挨拶の様子)

- ・閉会の辞

各々昼食を取り

13:30～集合でエクスカーションに参加です。

1コース 金沢表具体験(インテリアパネル作成)

2コース 加賀水引体験

3コース 加賀友禅体験

4コース 呈茶体験

5コース 石川県立図書館 見学ツアー

現地解散で帰路につきます。

私は新幹線利用で帰る予定でしたので、今回の基調講演で話に出ていた、JR 金沢駅新幹線待合室の展示物をしっかり見学することが出来ました。基調講演を聞いてなかったら、何か展示してあるなあ程度の関心しかなかったと思います。

待合室には展示物に関するパンフレットが置いてありました。大阪から参加の女性委員はサンダーバードで帰るので、入場券で入って見学をしていました。



(↑ 新幹線待合室の展示の様子)

二日間ともお天気が良く、楽しく過ごす事ができました。

東海北陸ブロックとして、何が出来たかわかりませんが、石川県女性委員会の皆様、ありがとうございました。

個別報告

◆7月29日(一日目)

■令和5年度

全国女性委員長会議に参加して

報告者: 高野 栄子

コロナは5類になったとはいえ、最近感染状況は悪化し、まだまだ気の抜けない日々です。そんな中、全建女に合わせ令和5年度の女性委員長会議が金沢で開催

されました。

全国から46都道府県の女性委員長(部長)が対面45名web1名が参加し、会議が行われました。昨年度より、大幅に対面参加者が増え、皆様のお話を直接お伺い出来ました。協議事項として大会アピールについて、今年度全国大会「しずおか大会」の女性委員会セッションのお話がありました。

報告事項として、

・次年度全建女は東京にて令和6年7月14日(日)7月15日(月・祝)にて開催

・令和7年度は全建女が山形県で開催(日時未定)

・「魅力ある和の空間ガイドブック」については各県全建女参加者の部数のみ配布

・各都道府県活動報告が各1分

ありました。ガイドブックの印刷については増刷の予定です。またweb版も製本に合わせバージョンアップされているそうです。今回岐阜県では、製本版を先にご協力頂きました掲載各施設の所有者様に送付することいたします。今後増刷されて各県に再配布されましたら、委員の皆さんに配布する予定です。各都道府県の活動報告について、コロナ渦の中皆さんいろいろ工夫をされて活発な活動が戻りつつあると感じました。鹿児島県はR6年度全国大会のPRをされました。

その他で「畳でおもてなしプロジェクト実行委員会」の方々が和の空間に欠かせない畳についてのPRをされました。



(↑ 高野さんの発表の様子)

■被災地報告

報告者 田口 里恵

今年度は、青森県、岩手県、宮城県、福島県の4県が三陸復興道路が全線開通したことから青森県三沢市からスタートし、岩手県～宮城県～福島県へとドラレコでリレー撮影するという新しい形の報告を映像を観ながら聞かせて頂きました。

青森県は本州最北端の犠牲者が出た記念碑のある三沢市からスタートし防波堤が出来景観が変わった復興支援道路八戸市へと工業地帯も平穏に活動し朝一も開催され陸上町へと報告を聞かせて頂き被災当時の景観もすっかり変わりしっかり復旧活動がなされている事がわかりました。

岩手県へバトンタッチし久慈道の駅のオープン内陸を海岸とを繋ぐ宮古盛岡横断道路東北横断自動車釜石秋田線の開通により峠ではない安全な道路によって結ばれ移動距離が短縮され道路が海岸に住む方々の安心な暮らしが守られるようになっていき、どんどん街も発展していくと思います。

宮城県の気仙沼から走行し一般道へ走行し大谷海岸へ道の駅・南三陸さんさん商店街から復興道路に戻り仙台東インターから福島の手前まで想定最大10mの津波浸水エリア

を走行その為復興道路は盛土をして津波避難階段が設置されて道路に避難できるように造られているそうです。

福島県は相馬市尾浜こども公園から走行し東北中央自動車道常盤双葉で降り走行するとソーラーパネルがみられ、ソーラパネルが設置されている場所があちこちにあるそうです。復興の願いをこめて建物に似顔絵が書かれてますが、そのままで残されているそうですが諦めないでほしいです。

三陸復興道路のドラレコ映像は現在東北の復興の状況がよくわかり感動しながら被災当時のテレビでみた酷い状態が思い浮かんでジンとききました。最近震災のことを聞く事がほとんどなくなりましたので、これからも続けてほしいです。

■活動報告「静岡県における木造住宅の耐震化の取組」の報告

報告者: 桂川麻里

静岡県くらし・環境部建築安全推進課 建築耐震班長 市川府元 氏による「静岡県における木造住宅耐震化の取組」についてお話をしました。
静岡県では阪神淡路大震災からではなく、昭和51年に東海地震説が発表されてから地震対策に取り組んできたということでした。
無料の耐震診断があるということを知らない方達がいまいますが、一般の方に向けてYouTubeで見られる『うちは「耐震家族」』住宅耐震編にて耐震補強の重要性をPRしたりしています。

<https://www.youtube.com/watch?v=7bHPfXj0Mvw>

耐震補強の補助事業の内容も、補助額は高齢者のみ世帯には割増があったり、コロナの時期には避難所での三密対策として在宅避難生活が送れるように高い耐震性を確保する耐震改修に関しては更に補助金割増としたり、対応の早さに驚きでした。
岐阜県よりも耐震補強率は高いなとは思いましたが、それでも耐震化率89.3%だそうです。
その為の普及・啓発への取組として、耐震補強をした高齢者の事例を紹介したりしているそうです。
実際に耐震改修に「踏み切った」という言葉に自分だけじゃなく人様に迷惑をかけないようにという思いが読み取れました。20年以上続けてきた静岡県独自の補助制度は令和7年までとなるということで、大地震への対策をやり切るという覚悟で取り組んでいるそうです。一般の方達への周知が一番難しいですが、一番大切なことだと思います。



(↑ 市川府本氏)

■基調講演

『石川らしい文化でおもてなし』に参加して

報告者 伊藤 麻子

テーマ: 北陸新幹線金沢駅舎は伝統工芸による「美術館のような金沢駅」

講師: 金沢学院大学 名誉教授 大場 吉美 氏

石川県を中心に世界中で空間デザイン、イベント計画演出を手がけ、デザイン教育にも深く携わっている講師は、金沢市民芸術村創立にも尽力されており、活動を通じてものづくりや伝統工芸のあり方と、金沢駅のデザインについてお話いただきました。

江戸時代、加賀前田藩は工芸を奨励しており、それが現代でも根付いて文化風土となっている。

石川には36品目の伝統的地場産業があり、全国的にも多い。都市戦略として工芸による個性豊かな魅力づくりに貢献可能とのことでした。

その36品目の中には輪島塗、加賀友禅、九谷焼はもちろんのこと、獅子頭、加賀毛針、美川仏壇と、あまり私にはなじみのないものまであります。

これらが地元の人々の努力と理解によって、今以て健在であることは誠に素晴らしいことです。

さて、金沢駅ですが、新幹線中2階待合室に30品目236作品を同じ大きさで展示してあります。

色彩を含めた視覚効果を現地でも検証し続けて完成された事を聞きました。その他、もてなしドームの連続デザインに注力したコンコースの柱24箇所も紹介されました。

最後に、金沢市が世界のデザイン都市として、多様に柔軟く変容していく交流の役割を担い続ける事を期待すると結ばれました。



(↑ 基調講演の様子)

■ 交流会報告

報告者:長瀬 八州余

17:15 から交流会が行われ、女性委員会担当副会長の秋田県の淡路会長が挨拶をなさいました。先の被災地報告について、東北4県がリレーで映像を撮り発表をすることは凄いと感心をしてお話をなさいました。



(↑ 淡路副会長の挨拶の様子)

ワンバイワンでは、山形県、埼玉県、福井県、滋賀県、島根県、宮崎県が発表されました。

山形県

9支部あり、銀山温泉の見学会の話がされました。



(↑ 山形県の写真)

埼玉県

川越空き家リノベーション見学会と深谷市の新旧建物をめぐるバスツアーの話がされました。



(↑ 埼玉県の写真)

福井県

木の時間割表の作成の話がされました。



(↑ 福井県の写真)

滋賀県

女性委員会が主催する事業 Do シリーズの No.84と No.85の話がされました。



(↑ 滋賀県の写真)

島根県

女性委員会が30周年で、一般の人を対象に「みんなの建築展—あなたの知らない女性建築士の世界」を開催。来場者120名との話をされました。



(↑ 島根県の写真)

宮崎県

懇親会の話がされました。



(↑ 宮崎県の写真)

今年度、はじめて県の建築士会の会長に女性が就任されました。それも島根県と兵庫県に2県同時にです。今回島根県の坪倉菜水さんが参加されており、挨拶がされました。



(↑ 島根県建築士会 坪倉会長 挨拶の様子)

◆7月30日(二日目午前)

◆分科会報告

■分科会 参加人数 一覧

A 分科会	会場52	オンライン17	計69名
B 分科会	会場39	オンライン10	計49名
C 分科会	会場50	オンライン 9	計59名
D 分科会	会場49	オンライン 7	計56名
E分科会	会場35	オンライン 5	計40名
F分科会	会場30	オンライン 6	計36名

■A 分科会 あつまれ～旅好き建築女子！

「魅力ある和の空間ガイドブック」part5

報告者:田口 里恵

今回は群馬県建築士会による明治20年代に建てられた蔵・柏屋四郎右衛門の2棟の蔵を2つを1つの空間にしてレストラン、コンサートホールとして街の顔として活躍している事例と、香川県建築士会による多度津の街並が残る伝統的建物2物件を街歩きと合わせて発表を聞かせて頂きました。

群馬県藤岡市に絹が繁栄した街並みに300年を経て歴史と文化を大切にしたいという気持ちから再生された蔵、力強い梁を生かし老舗の風格の中に洗練されたモダンで落ち着いた空間の蔵・柏屋四郎右衛門は甦りました。昔は家財や商品等を安全に保管するために造られた建物がレストラン・コンサートホールとして甦る事例を聞かせていただき昔の建物の大切さを感じ実際にこの空間を見たいと思いました。世界遺産にも登録された富岡製糸場、高山社跡と一緒に絹の街をぶらっとしたいです。

香川県多度津の金毘羅街道沿いに成立した商家街として本町筋沿いの町並みは現代も商家街として機能が保たれ、二階建て本瓦葺の特徴を持つ伝統的な町並みに大正時代に料亭だった建物を改造し現在古民家ステイにされてみえる香露軒1階の土間付近は改造されましたが、座敷はそのままの状態だそうです。

合田邸は広い敷地内に構造形式や細部様式建築年代が異なる和風・洋風の建築物が混在近代豪商建築で現在補強工事中だそうです。

是非近いうちに香露軒に宿泊し多度津の伝統的な街並みを見ながら食べ歩きを楽しみに行きたいと思います。



(↑ A分科会の様子)

■B 分科会に参加して

報告者: 下川 滝美

「バリアフリーのまちづくり／みんなで考えるバリアフリー」に参加しました。

今回はいつものテーマである「高齢者の住まい」ではなく「バリアフリー」というテーマでの分科会となっていました。

私自身平成11年から子供たちや当事者の方とバリアフリー調査をしていたので興味深く参加をしました。

県によってはバリアフリーツアーを相談できるセンターがあるということ、それが岐阜にはないということが残念でした。

今までいろんなところで研修を受けて他県にあるということは認識していたのですがその相談内容がとても親切で個々に対応していることに奥深さを感じました。

温泉や温泉宿からのバリアフリー相談を実際の写真を通して説明をお聞きすることができ当事者の方と建築士がタックを組みことで使いやすくなること。

ハードだけでなくソフト面へのアドバイスもあり細やかな配慮がされていました。

転居前に作ったバリアフリーマップを転居先でも作りたくなってしまうような内容でした。

施設の設計、維持などの面で当事者の意見はとても大切だと改めて感じました。



(↑ 会場の様子)

■C分科会

「いばらき木造塾」～伝統技術の継承～の報告

報告者: 桂川麻里

C分科会は茨城県建築士会の2名の方がコメンテーターとして、「いばらき木造塾」を立ち上げたお話、初回から最終回まで受講生等して通ったお話をしてくれました。

岐阜県でも2002年(平成14年)から「ぎふ木造塾」を毎年開催しております。が、その内容は全く異なるものでした。

岐阜県の場合はほぼ単発の講習で、たまに講師の先生とゆかりのある建物の見学会を挟んだり、木造に関する事なら古い建築物から新しい建築物等何でも勉強しましょうというスタンスです。

いばらき木造塾では、四号特例がなくなる前に木造に精通した建築士の育成をしようとはじめたということで、1年間のスケジュールもとてもハードなものでした。が、講師の方もとても協力的で宿題を出したら添削も徹底的に行ってもらえるという添削された資料も見てとても驚きました。

他にも継手を自分たちで墨付けから行ったりするというカリキュラムで、運営再度もとても大変なことなのに、5年間も続けられたことにも大変すばらしいとしか言えない内容でした。

また、宿題はCAD不可の手描きだったそうで、だんだん提出者が減っていくのは分かるような気がしました。

一番心に残っている事は講師の先生の「和風住宅って言葉は嫌い。和風の風ってなんですか？」って言葉です。

施主様に説明する時に使用しちゃっていますが、何か他に良い伝え方を模索したいと思いました。

意見交換と質疑応答では活発な意見が出ました。私もぎふ木造塾に役に立たないかと質問したり、ぎふ木造塾の内容も紹介させて頂きました。

もっと皆さんとお話出来たらと思った分科会でした。



(↑ コメンテーターのお二人)



(↑ 質疑応答の様子)

■D分科会報告

報告者: 伊藤 麻子

「住まい・まちづくりを考えよう」～小中学生の住教育出前授業

コメンテーター 竹田 敦子氏(大阪府建築士会)

平成15年に大阪府職員を中心とした出前講座のモデルを実施したことから始まり、その後平成20年度から自主運営組織となった。

構成団体は建築士会や大阪府、防災センター、住宅センターなど7団体で30名弱が常任委員、その他大学などからのサポーター委員が30数名で活動している。子ども達に建築に親しむきっかけを与え、楽しさや見方を伝えるのが主旨。

対象は小学3-4年生から中学生までで、学校からの直接申込でやりとりし講座を行なう。

また、学校からの申込は毎年20件以上あり、順次行なっている。

内容は20科目程度で常にブラッシュアップし、誰でもわかりやすく誰でも講師を担当できるよう、工夫している。テキストに「ユメイエ」「住まい・まちづくりを考えよう」の2冊の冊子を作成し、使用している。これは教師の手引きになるよう見開き1ページを一時限の授業で使える構成になっている。座学は少なく、体験型の内容にしている。

…出前講座メニュー…

1. 快適な住まい

1-1 世界の様々な家

気候や文化の違いによる世界の様々な家を紹介。その後、仮想の敷地図と平面図で快適な生活を考える。

1-2 熱環境

環境に対しての日々の暮らしをクイズ形式で行なう。その後、サーモグラフカメラで表面温度と気温について学ぶ。

2. 建築とバリアフリー

日本におけるバリアフリーの起源から始まり、まちの危険な部分やユニバーサルデザインの工夫などを近隣のまちや大阪駅を画像で見ているながらクイズで学ぶ。

3. まちと防災

災害にはどのようなものがあるのか、近年起こった災害を学び、ハザードマップを見て、家の中の地震対策を考える。ロープワーク体験や備蓄品に触れる。

4. ユメのイエ・ユメのマチ

4時限連続授業。理想の住まいをグループで作成し、最後にまちにする。

5. 先生に向けた講座

…トークセッションでは、愛知県や福井県、岩手県がそれぞれの活動を発表。

…分科会を終えて、組織づくりをしっかりと行なっていると、知識の共有などできて、運営もスムーズなようでした。建築士が出来ることはバリアフリーや防災など多岐に渡っていて、住教育に興味はありますが、なかなか大変な事と分かりました。

■F分科会報告

報告者：高野 栄子

F分科会「灯台が照らした未来への道すじ」に参加しました。

F分科会は大分県差が半島の岬に明治時代に建設された鉄作りの「関埼灯台」を地域活性化の核にしたいと大分県文化財課からの委託を(公社)大分県建築士会が受けて、令和3年度よりヘリテージマネージャーを中心に調査報告後、令和4年に「登録有形文化財」に指定された報告でした。

コメンテーターの小関さんはヘリテージマネージャーとしてこの調査に参加され、文化財登録後は記念イベントなどにも取り組まれていました。

文化財の登録は登録して終わりではなく、それをその後いかに活用し、維持、保存していくかが大切だとよくわかりました。

「関埼灯台」は県の文化財課の委託で士会のヘリテージマネージャーが活動するという歴史的建造物の保存、活用の方法としては典型的な事例で、今後の岐阜県でのヘリテージマネージャー活動のとてもよい手本だと思いました。

歴史的建造物というものは、保存活用を通して、その建物を核としたまちづくりというとても大切なキーポイントになると感じました。

今回の大分の事例は「灯台」という建物で、所有者は海上保安庁という公の機関でした。また「灯台」は街のシンボリックな役割をもつので、なおさら修理、保存、活用の必要があったのだらうと思いました。

その他として小関さんの活動についてお話があり大工

の資格をお持ちで、木育活動や女性職人の会などについてのお話をお伺いしました。とてもパワフルに活動して見えて、ただただ感心しました。



(↑ 会場の様子)



(↑ 会場の様子)

7月30日(二日目 午後)

【エキスカーショ ン コース案内】

- 1コース 金沢表具体験(インテリアパネル作成)
- 2コース 加賀水引体験
- 3コース 加賀友禅体験
- 4コース 呈茶体験
- 5コース 石川県立図書館 見学ツアー

1~4コースは大体定員に収まったということですが、5コースの「石川県立図書館 見学ツアー」は多くの参加希望があり、一台貸し切りバスを追加したとの事です。

■エキスカーショ ン 1コース

「金沢表具体験」の報告

報告者: 桂川麻里

金沢市民芸術村内にある金沢職人大学校で金沢表具体験をしてきました。

その前にお昼ご飯を同じ敷地内にある「れんが亭」で頂きました。

赤レンガ造りのおしゃれな内外装でした。食事はイタリアンでデザートまでおいしく頂きました。その後ちょっと廻りを散策しました。大正時代っぽいなと近づいた建物は芸術村の事務局で「登録有形文化財」でした。もしかして先ほどのれんが亭もそうなのかと調べましたが、こちらは登録有形文化財ではありませんでしたが、大正から昭和初期にかけて建てられた紡績工場の倉庫群でした。すべて木造でれんが亭は向上時代の外壁はRC造だったそうです。ご興味のある方は下記 URL をご参照ください。

<https://www.artvillage.gr.jp/history/>

ここから金沢表具体験についてです。まずは表具とは何かを説明して頂きました。「襖」、「掛軸」、「屏風」までは知っていましたが、「インテリア」で「クロス」、「クッションフロア」と言われて?!となりました。が、昔の建物の壁紙は和紙だったなと思い出しました。現在主流のビニールクロスは内装業者さんがほぼ施工しますが、難しい表装の仕上がりでクロスの柄合わせもして頂けたらきれいな仕上がりになりそうです。和室も洋室も一緒に施工して頂けるのは知りませんでした。

次は襖の貼りの順番を教えて頂きました。高級なものほど厚みが増すそうです。

その次は「金沢からかみ」について教えて頂きました。伝統文化がたくさん残る金沢ですが、町家などの襖紙はほとんどが京都や東京のものを使用しているそうです。それを残念に思った有志で「金沢からかみ研究会」を2011年に発足し工芸として「金沢からかみ」を継承していこうと始まったそうです。

次は表具体験です。案内にはインテリアパネル作成とあったので、襖紙を何かに貼って終わりだと思っていま

したが、模様入れから行いました。襖紙と型紙が何種類かあってその中から自分の好きな紙色と型紙を選びました。インテリアパネルの大きさとなる段ボールの枠で位置を決めました。私は穂がはずむ感じを出したくて枠の左端に柄を置きました。顔料を型紙の上にたらしへうで一気に模様の上に滑らします。角度、速度によってうまく型紙の中に顔料が入っていかないということでした。この作業は私はうまく一発で出来ました。乾くの待つ間、金箔が登場しました。これは余っていないと使えないということで穂がはずむ感じが出るように使用させて頂きました。下張りをした板が用意されておりそこに襖紙を貼付け作業に入ります。が、ここで電車の時間が間に合わない方達がいるためタクシーの手配もあるため、第一陣、第二陣、第三陣と先に貼付け作業を行い、自家用車の私は最後に貼付け作業をすることになりました。賑やかだった工房内は2人の講師と私の3人になり一気に静かになりちょっと寂しくなりましたが、どんなことが出来るのか等ゆっくりお話を聞くことが出来ました。とても良い経験が出来、またとても楽しく過ごすことが出来ました。



(↑ 金沢職人大学校 外観)



(↑ 食事をしたれんが亭)



(↑ 模様の型紙)



(↑ 金沢市民芸術村事務所棟※登録有形文化財)



(↑ インテリアパネル完成品)

■エキスカーション 2コース

加賀水引体験に参加して

報告者:長瀬 八州余



(作品を持って集合写真)

金沢市文化ホールに集合して、徒歩にて会場の蒼風庵へ移動します。

今回の参加者は13名です。新潟から参加の方は、娘さんと二人での参加していました。仲良く二人で協力して作品を作っていました。

講師の先生は小学校等へ出張授業をして、水引の魅力を広める活動もしているということでした。

いろいろな色の水引から自分の好きな色を3色選んで、2色で三つ編みを2本作り、残りの1色で花を大、中、小、極小と4タイプ作り、飾り羽を選んで、それらを合わせて、リースを作ります。合わせて形を整えるのは先生がして下さいます。

先生の他にスタッフさんが1名参加で教えて下さるので、わからない事を聞き、おかしい所は直して下さいました。

花は先生と一緒に説明通り水引を動かして、その時は出来ましたが、一人で出来る気がしません。

参加者各々素敵はリースができあがりました。

その後、今回の会場の見学をおこないました。

会場の蒼風庵は築90年になる金澤町家で「優良金澤町家」の認定を受けている、一棟貸切の宿泊施設です。間取りや柱などはほぼ当時のまま、木製の建具や室内の調度品など、当時のものがよく残っています。檜の香る五右衛門風呂や苔と竹の中庭など、町中にあるとは

思えない静かな環境です。オーナーさんも関係者として参加くださり、建物の説明をして下さいました。改築の担当をして下さった設計士さんは女性の方との説明を受けました。

帰りは金沢市文化ホールへ戻って解散という案内になっていましたが、私は、体験後、直接近くのバス停から金沢駅に向かうことにしたので、荷物を持っての移動となりました。案内役の石川県女性委員さんが一部荷物を持って下さいました。重たいのに本当にありがとうございました。助かりました。



(↑ 沢山の水引の中から自分の好きな色の水引を選びます。)



(↑ 中央の白黒のワンピースの女性が講師の先生です。)



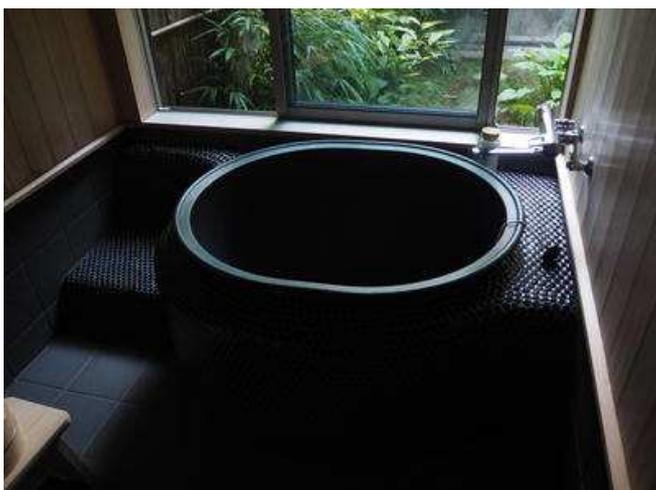
(↑ 先生にきれいにまとめていただきました。)



(↑ 左の方がオーナーさんで、説明を受けています。)



(↑ 「優良金澤町家」で有るという印)



(↑ 五右衛門風呂、風呂からお庭を眺める事ができます。)

■エスカレーション5コース

石川県立図書館 見学ツアー

報告者: 田口 里恵

昨年令和4年7月に開館した石川県立図書館に見学に行ってきました。今までの図書館とは全く違う室内の公園のような、目的がなくてもブラっと遊びに行け、のんびり過ごすことが出来る場所で、実際3時間半見学でしたが、本を読むでもなくフラフラしてましたが、あっという間に時間が過ぎたような凄くゆっくり過ごせた気分になりました。

日曜日ともあって、こどもエリアはアスレチックで遊んでいたり飛び回っていたり凄く騒がしいのですが、図書エリアには全く聞こえなく子供の姿すら見る事もなく居る事が出来本当に自分の好きな様に過ごす事が出来る場所だと思いました。

こんな場所が近くにあったらいつも行きたい、絶対行くと思います。



(↑ 石川県立図書館内での建物の説明の様子)



(↑ 平面図ではイメージが伝わらない為このようなイメージ図を作成されたそうです。)



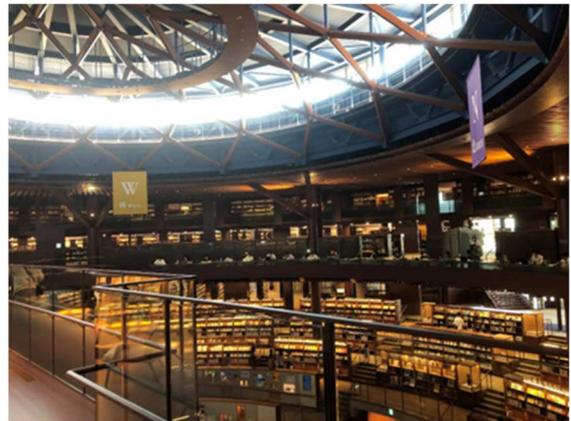
(↑ 大円形閲覧空間吹抜けを多くの書架が取り囲む円形劇場のような大閲覧空間)



(↑ 閲覧エリア メインストリートの外構は、図書分類に本が並ぶ)



(↑ 本の表紙を面を見せる並べ方で館内をめぐり歩きながらウィンドショッピングのように、思いもよらないほんとの出会いを楽しむことができる。)



(↑ 3階中央のこのブリッジからは全体を360度見渡すことができる。図書や雑誌椅子を配置しダイナミックな吹抜け空間を眺めながらゆっくりと過ごせる特別な読書)



(↑ 伝統工芸の活用 屋内広場の壁面は、本県を代表する名匠達の作品を展示。ユネスコの無形文化遺産に登録された「縁付金箔」が彩りを添える。)



(↑ 1周約160mの回廊式の閲覧空間。大円形閲覧空間を一望できる絶好のビューポイント本屋図書館の魅力を感じることが出来る空間)



(↑ 外壁パネルとガラスとが交互に折り重なる形で『本のページをめくる』というイメーを表現)



第 65 回建築士会全国大会

しずおか大会

日 時: 令和5年10月27日(金)

会 場: 静岡グランシップ

(静岡市駿河区東静岡2丁目 3-1)

テーマ: 歴史と文化の継承

～ローカルに生きる～

より高く、より深く、語り合おう これからのローカル

参加者: 3名



(会場玄関前にて集合写真)

■ 建築士会全国大会しずおか大会 に参加して 全体報告

報告者: 長瀬 八州余

第 65 回建築士会全国大会しずおか大会が、令和5年10月27日(金)に静岡市グランシップにておこなわれました。岐阜県女性委員会からは、高野さん、下川さんと長瀬の3名が参加しました。高野さんと下川さんは日帰りでしたが、長瀬は2日目のエキスカージンにも参加しました。

27日は、女性委員会セッションが午前10時から始まるので、前泊をして、会場へ早めに行きました。



(↑ 至る所に案内があります。)

受付付近には、静岡県のキャラクターの出世大名康くんたちのお出迎えもありました。



(↑ キャラクターのお出迎え)

グランシップ3階ロビーには、全建女石川大会の報告パネルがありました。



(↑ 全建女石川大会の報告の様子)

10時～12時まで各セッション参加です。



(↑ 女性委員会セッションの様子)

12時から昼食です。

石黒会長、福田さん、高野さん、桂川さんと一緒に食べました。



(↑ 食事の様子)



(↑ 彩り静岡弁当)



(↑ 静岡味めぐり)



(↑ うなぎ弁当)

13時から記念講演とパネルディスカッションですが、団体のバスが遅れているので少し開始時間が延びました。

パネルディスカッションは忌憚のない意見が出て楽しく聞く事ができました。



(↑ パネラーの紹介)

15時から大会式典です。

オープニングは「富岳太鼓」による太鼓の演奏でした。



(↑ 富岳太鼓の演奏の様子)

次回の開催は鹿児島県です。水色の上着を着ている人は鹿児島県の人たちです。



(↑ 大会旗引継の様子)



(↑ 鹿児島県のアピールの様子)

18時からの大交流会は会場を静岡駅すぐのホテルグランヒルズ静岡で開かれました。



(↑ 大交流会の様子)

お天気もよく、一日無事に過ごすことができました。

◆10月27日(金)1日目

◆セッション報告

10セッションが用意されました。

- 1 青年委員会セッション
地域実践活動発表
- 2 女性委員会セッション(長瀬参加)
思いっきりバージョンアップ! ~女性も青年も参加したい「魅力ある建築士会」とは
- 3 街中(空き家)まちづくりセッション
ローカルに生きる
- 4 福祉まちづくりセッション(下川参加)
施設計画時の障害当事者参画について
- 5 防災まちづくりセッション
「浸水被害住宅の技術対策マニュアル」を考える
- 6 景観・歴史まちづくりセッション
／第10回ヘリテージマネージャー大会(高野参加)
地域を生かす景観・歴史まちづくり
～静岡「らしさ」のまちづくり・その活動と展開～
- 7 木のまちづくりセッション
地域の森林・林業について建築士は何を学び、
なにができるか
- 8 第17回木の建築賞
受賞作品の紹介と、大賞受賞者と選考委員が
語る木の建築
- 9 環境部会セッション
ストック社会に寄り添う魅力ある建築とは
～建築士SDGs行動宣言の実践について考える
- 10 情報部会セッション
助成金(補助金)を活用して進めよう業務のIT化
～利用可能な助成金(補助金)の種類や活用方法～

■女性委員会セッションに参加して

報告者:長瀬 八州余

テーマ:思いっきりバージョン UP!

～女性も青年も参加したい「魅力ある建築士会」とは～

会場:グランシップ9階 910 会議室

受付で受付をして、セッション資料集とみかんとみかんを2個いただきました。



(↑ 女性委員会セッション 受付の様子)



(↑ 受付でもらったセッション資料集とみかん2個)

本間連合会女性委員長の開会挨拶後、全建女石川大会の報告がありました。石川大会の参加者は、対面での参加者約 310 名、オンライン参加者約 70 名との事です。

石貫副委員長からアンケート結果の報告がありました。



(↑ 石貫副委員長の発表の様子)

全国約 350 名からのアンケートを集計してあります。

なんとなく士会の会員数が減っているなあという話は聞いていましたが、数字として目にするると大変な事になっていることを実感します。岐阜県は 1,000 名を切っています。20年前の人数の半分になっています。

パネリストの方は各ブロックから出てきていて、ブロック内での各県の取り組みを話されました。

近畿ブロックでは、単一県では難しい取り組みは、県で連系するとか、ブロックでの事業にしておこなっていると話されました。

中国四国ブロックの徳島県の取り組みとして、青年委員会から退いた後の受け皿がないので、参加自由で予算は付かないので、自分たちでどうにかしなくてはならないが、壮年部を作り、自由に活動してもらっている。その後はシニア部があり、シニア部は全員参加で、予算が付いていますとの説明でした。

北海道では、インスタを今年の6月から始めて、見学会の案内や活動報告などを発信しており、今は齋藤さんが一人でおこなっていると話されました。

各県、各ブロックでは委員の掘り起こし等をおこなっています。

愛知県から事例報告として杉原尚子さんが発表をされました。学生のうちから建築士会関係者と交流を持ってもらうように、学生会員は特別準会員として入会費、年会費は無料とか、ファミリー会員は家族だけだったが、会社が同じなら、家族以外でもファミリー会員とする等の改革をおこなっている。それと共に制度改革のお知らせリーフレットを作成して折に触れ配布しているということで、1部いただいできました。



(↑ 愛知建築士会 杉原さんの発表の様子)

会場に愛知県の会長の濱田さんもこのセッションに参加してみえたので、発言をいただきました。学生に幅広い職種の選択がある事を知らせる必要があると思っており、そのためにも学生のうちからいろいろな機会を設ける活動の一つになればよいと思っていると発言されました。



(↑ 濱田会長の発言の様子)

士会の会員拡大は簡単な事ではないが、皆で知恵を寄せ合って進めていかなくてはならない問題だと再確認しました。

■福祉まちづくりセッションに参加して

報告者: 下川 滝美

テーマ: 施設計画時の障害当事者参画について
会場: グランシップ9階 904 会議室

10月27日 久しぶりに全国大会に参加をしました。ずっと ZOOM での参加でしたが熱気のある会場の雰囲気懐かしく思いました。

福祉まちづくりセッションの今年のテーマは「施設計画時の障害当事者参画について」でした。

事例発表として宮崎県では国体施設整備の3施設において障害者6団体に意見を聞いていること。

また建築士会は障害者当事者団体や行政との連携・協力をしており成果も見られると言う発表で建築士の役割の大きさを感じました。

兵庫県の「福祉まちづくりアドバイザー」はとても興味のある発表でした。

施設の点検、助言を障がい当事者や建築・福祉の専門家が行うものです。

このような制度があれば県内の施設も使いやすくなるのだろうと思うのですが、当事者の身体特性やその日の体調などもあり、まとめるのはなかなか難しいとのこと。だれにでもやさしい施設というのはハードルが高いなと感じました。

京都府建築士会のハート&ハート研究会の三十三間堂のバリアフリー調査報告では、当事者と一緒観光地を回ること気が付くことが多くあること。その気づきをどう発信していくかも課題だと思いました。

その他にも興味深い事例発表でした。

国土交通省による「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律及び国土交通省対応指針の改正について」の説明では建築士も設計等業として対象となるということです。

障害のある方からの設計依頼もあるかと思いますが差別的扱いに配慮していきたいと思います。

2時間という短い時間でしたが充実した時を過ごすことができました。



堀内秀哲さんが発表されました。町家の景観が崩れ、まちの個性が失われて行くなかで、セピア色の写真を集め、「昔なつかしの写真展」を開催し、案内板を設置したそうです。また小学校の校外授業で「まち探検授業」が行われているようです。また町の中に伊豆石を使用した蔵が6棟現存し、その蔵の保存活用に取り組んでいるそうです。

2件目は、「明治時代の赤レンガ製茶工場遺構が解体の危機を乗り越えて菊川ランドマークへ」として、NPO法人菊川まちいきの大橋隆夫さんが発表されました。土地区画整理によって解体予定だった赤レンガ倉庫の保存活動についてのお話でした。建物を保存活用するため、学術調査から国登録有形文化財への登録までいろいろな苦労や経験や、現在の活動と今後の展望をお話されました。

3件目は「まちなみと建物を住み継ぐ～清水区蒲原地区の東海道を活かした市民のまちづくり～」でした。NPO法人旧五十嵐邸を考える会理事長 片瀬信江さんがお話されました。片瀬さんは建築士では無いそうです。地元の普通の人々が地元を愛し、地元をなんとかしようという思いでまちなみ保全の活動をされています。その中で大正時代の歯科医院の保全活用に取り組みこちらも国登録有形文化財に登録されています。

その後、このお三方と連合会のまちづくり委員の塩見さんのコーディネートでディスカッションが行われました。皆さんとても熱く活動を語らえ、こういった活動は「心」精神が大切なんだとつくづく思いました。静岡県はまちづくり先進県だと感じました。各地にまちづくり活動を進める団体がありネットワークづくりが進んでいるようです。岐阜県での今後の活動の参考になりました。

■景観・歴史まちづくりセッションに参加して

報告者：高野 栄子

景観・歴史まちづくりセッション／第10回全国ヘリテージマネージャー大会

テーマ「地域を生かす景観・歴史まちづくり」～静岡「らしさ」のまちづくり・その活動と展開～

会場：グランシップ 6階 交流ホール

今年度のセッションは景観と歴史まちづくり部会のセッションに参加しました。ヘリテージマネージャー大会も同時開催でした。このセッションは参加者多数で200名以上が参加しました。

事例発表は3件ありました。

1件目は、東海道の真ん中～中野町 景観保全と伊豆石の蔵再生の取り組みについて、中野町を考える会の





■ 記念講演に参加して

報告者: 高野 栄子

・基調講演「城づくりの歴史と文化」

基調講演は2部構成でした。一部は静岡大学名誉教授の小和田哲男先生による「城」についての講演でした。小和田先生は岐阜県との縁の深い方で、関ヶ原の古戦場記念館の名誉館長もお努めの戦国研究の専門家です。

城のはじまりから現在までをお話し頂きました。城とは弥生時代から2千年の歴史があり、天守を持つ城は主に関ヶ原の戦い以降の築城ラッシュで生まれたそうです。

また城を作るには5つの工程があり地選、地取、縄張、普請、作事という流れで出来るとのことでした。建造物は天守だけではなく、御殿や櫓などその他の建造物を含め城郭建築となるようです。その他城の分類、構造などとても楽しく、わかりやすい講演でした。



(↑ 講師の紹介)

・パネルディスカッション「城郭遺産等の保存と活用」

二部は、講演をされた小和田先生と三浦先生、加藤先生によるパネルディスカッションでした。

公益財団法人日本城郭協会なる会があることを初めて知りました。お三方はその会の役員さんでした。ファシリテーターの加藤先生の軽快なお話と、他の先生方の意見が楽しい講演でした。

現存する江戸時代の天守は12ヶ所あるそうです。明治の廃藩置県の際取り壊された城がたくさんあり、その城跡に戦後徐々に再建天守が増えて行ったようです。観光施設や展望台としての城がふえ現在はインチキ天守がたくさんあるようです。復元した天守は前の物とは全く違い、そもそも天守がなかった城に天守をつくっているようです。

写真や絵図がのこり、100%再現が可能な城は100%再現してこそ歴史的建造物としての価値があると力説してみえました。近年本物志向に向かい、木造での復元、再現が増えつつあり、天守だけでなく御殿や門の再現も進んできているようです。そこで名古屋城の再建についても話題になり、興味深い意見がありました。小和田先生は、城とは革靴で踏み入れるものでなく、入口で靴を脱ぎ靴下で入ってこそそのお城だとおっしゃってみえました、わたしもまったくその通りだと思いました。



(↑ パネルディスカッションの様子)

■建築士会全国大会しずおか大会 大交流会に参加して

報告者:長瀬 八州余

静岡グランシップでの大会式典終了後、JRにて、東静岡駅から静岡駅に降りて、大交流会会場のホテルグランヒルズ静岡へ向かいます。

私たち岐阜県は東海北陸ブロックで静岡県と同じブロックなので、席が会場内ではなく、ホール側でした。

参加者は約 800 名との事です。

会場は多くの人でいっぱいです。乾杯後立食です。

大道芸人さんのパフォーマンスがあったり、次回の開催県の鹿児島県の踊りの披露などがありました。



(↑ 飯尾静岡県建築士会会長の挨拶の様子)



(↑ 大道芸人さんのパフォーマンスの様子)



(↑ ステージ上で鹿児島県の人たちが踊りのパフォーマンスの様子)

◆10月28日(土) 2日目

◆エキスカーション報告

今回は9コース有りました。

- A 駿河の国 国宝と世界文化遺産探訪
- B とことん富士山コース
- C 静岡茶文化と東海道史跡めぐり
- D 富士山を望む吊り橋と伊豆世界遺産の旅
- E 伊豆の玄関口 三嶋大社と駿河湾の幸
- F アニメと聖地 天竜ローカル鉄道と木造天守閣
- G 出世の街 浜松城と家康
- H おとぎ話の世界と奥浜名湖の歴史めぐり・・・中止
- I 地元ガイドと徒歩でめぐる駿府・家康の功績探し

■エキスカーション

Cコースに参加して

報告者:長瀬 八州余

エキスカーション Cコースは「静岡茶文化と東海道史跡めぐり」という表題で、①東海道岡部宿 大旅籠柏屋、②蓬萊橋、③ふじのくに茶の都ミュージアム、④KADODE OOIGAWA(昼食)以上4か所をまわるコースです。

2台のバスに別れて、総勢59名での移動となります。

私の乗ったバスの静岡県建築士会からの担当は、柳原さんと清水さんでした。

①東海道21番目の宿場町の岡部宿を代表する旅籠の柏屋は、江戸時代後期の建築物で、1998年に国の登録有形文化財、2020年には日本遺産に認定されています。



(↑岡部宿の駐車場にて)

学芸員さんの説明で、建物内部を見学します。



(↑説明を受けている様子)

侍用の部屋の畳は、縁有りで、それ以外は縁なしの畳を使用との説明を受けました。本来なら井戸は建物の外にあるのですが、道路拡張に伴い、建物を移動したので、今は建物内に井戸がありますとの事です。



(↑登録有形文化財のパネル)

②蓬莱橋見学に向かいます。

ボランティアガイドさんの説明を受けます。大井川にかかる「蓬莱橋」は、全長 897.4 メートル、通行幅 2.4 メートルの木造歩道橋です。洪水等に備えて、橋脚はコンクリート製を使用していますが、歩道橋部分は木造です。



渡りきりたかったのですが、予定されていた見学時間が短く、途中から引き返しての見学となりました。

③ふじのくに茶の都ミュージアム

車窓から牧ノ原台地の茶畑を眺めて、「ふじのくに茶の都ミュージアム」に向かいます。

博物館、茶室、庭園、商業館からなるミュージアムです。展望ホールからは富士山を望むことが出来るということですが、雲が出ていて、観ることは出来ませんでした。



(車窓からの一面の茶畑)



(↑ 庭を望む)

④KADODE OOIGAWA

島田市にできた、農業協同組合が運営している「緑茶・農業・観光の体験型フードパーク」をコンセプトにしている施設です。農家レストランがあり、ビュッフェスタイルで90分間の昼食です。大井川鐵道の門出駅を併設しており、SLは止まりませんが、この日は機関車トーマス号が目の前を歩いて行きました。



(↑ 実物の SL の展示もあります)

帰路で静岡空港へ行く人がいなかったため、予定より1時間早く静岡駅に着きました。

静岡建築士会の皆様、ありがとうございました。

編集後記

51号をお届けします。

11月の発行ということで、マークはコスモスを使用しました。

令和5年度前期(4月～10月)の報告となっています。

新型コロナの第5類移行に伴い対面での行事等が多くなりました。

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。
また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会
岐阜市藪田南5丁目14番地12号
岐阜県シンクタンク庁舎4階



TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

Eメールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

